

B型肝炎ワクチンによる肝臓がんの予防

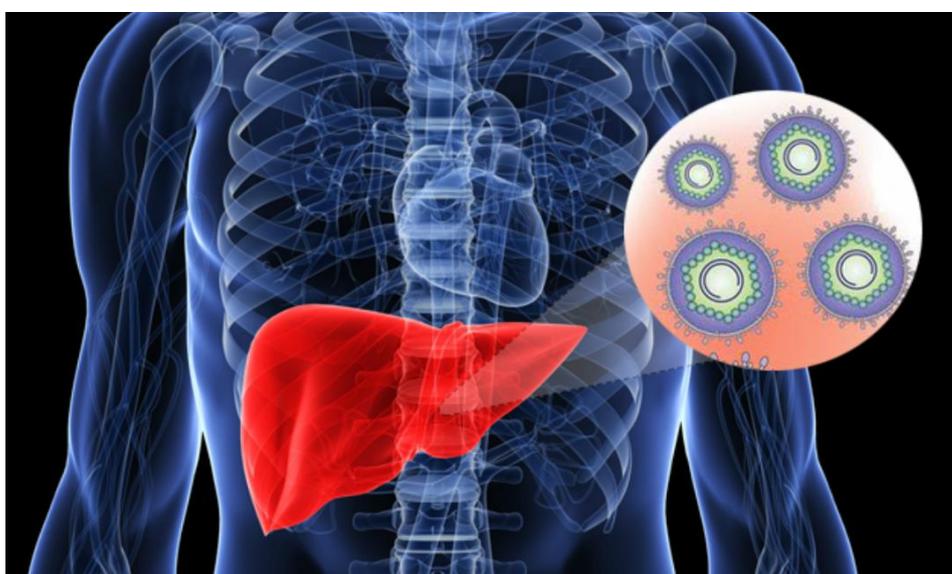
2016年10月、B型肝炎ワクチン（HBVワクチン）は、全ての乳児を対象に定期接種化されました。



定期接種の場合は、生後 2 カ月、生後 3 カ月、生後 7~8 カ月に接種します。母子感染予防の場合は、接種開始が早く、出生直後に 1 回目を接種します。



持続感染を生じた場合、慢性肝炎、肝硬変、肝臓がんを生じるB型肝炎。その予防効果があるB型肝炎ワクチンは、世界で最初に実用化されたがん予防ワクチンともいえます。昨今、性行為を介した感染も増えています。



小児期のワクチン接種の効果は20年以上続くといわれていますので、接種スケジュールに従ってきちんと接種したいものです。